

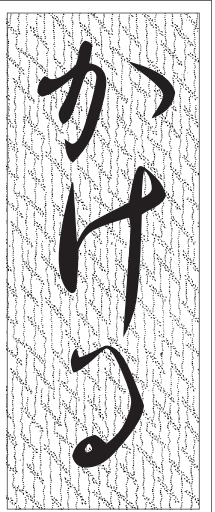


管長猊下より住職辞令を頂く

がり、地域の繋がりと云うのが  
軽んじられている気が致しま  
す。私たちは決して一人の力だ  
けでは生きていきません。この  
世に生を授かったのも両親のお  
かげ、大人に成長出来たのも色  
んな人のおかげ、その「おかげ  
さま」の気持ちを大切にしなけ  
ればならない。お仏壇の前で心  
落ち着かせて手を合わせれば、  
自然とその思いを感じ取れるこ  
とだと思います。 合掌

早いもので今年もお盆の時期となりました。私共も年始参り、彼岸参り、そしてお盆参りと毎年決まった年分行事を行っていますと月日の流れを特に早く感じます。  
先般、皆様にご挨拶した通り、私が大雄寺四世として住職位に就任する事と相成りました。自己弁道に励み、檀信徒皆様と接する日常は住職となつた今も変わりませんが、大雄寺の歴史の重みを感じる度に責任をひしひしと感じます。  
この大雄寺も昨年、開教百周年を迎える事が出来ました。それも歴代住職、また支えて頂いた檀信徒皆様のおかげでございます。このような立場になって思うのは、亡き先達の思いを後世にきちんとした形で伝えるのも今を生きる者の務めなんだろうと。  
最近は何人主義という言葉だけが独り歩きして、昔ながらの家族の繋がりが、地域の繋がりと云うのが軽んじられている気が致します。私たちは決して一人の力だけでは生きていきません。この世に生を授かったのも両親のおかげ、大人に成長出来たのも色々な人のおかげ、その「おかげさま」の気持ちを大切にしなければなりません。お仏壇の前で心落ち着かせて手を合わせれば、自然とその思いを感じ取れることだと思います。 合掌

# 住職挨拶



第 5 号  
平成 26 年盛夏  
発行  
真龍山大雄寺  
北見市留辺藪町宮下町 109  
TEL 0157-42-2418  
FAX 0157-42-2748

# お寺の動き

## 当山二世十七回忌法要

平成二十五年十月十七日、大雄寺本堂にて当山二世中興龍玄玉秀大和尚十七回忌法要を執り行いました。当日は天候にも恵まれ、たくさんの方丈様、参詣者の方が集まり、厳粛な雰囲気の中、無事円成致しました。二世住職が遷化してもう十六年が経ちますが、それでも尚、たくさんの方のお参りとなつたのも二世住職の人柄と布教教化の功績なんだろうと切に感じます。私共も二世住職の教えを引き継いでいけるよう精進したいと思ひます。



当山二世十七回忌法要

# 総代・新世話人紹介

この度、新たに世話人の方を増員し、組織化致しました。そしてこれからは毎年、年に一度の総会を開き、お寺の現況を話し合い、また監査役を二名置いて護寺会費収支決算を行いたく思います。将来的には二十〜三十人規模の組織にして、檀信徒皆様にもお寺の維持・運営に関わって頂き、お寺を中心とした新たな繋がりを強くしていきたいと思っております。

## 平成二十六年度役員・世話人

住職	米田憲人	世話人	安藤祐太郎(上町)
総代	戸田健司(大富)	世話人	佐川和則(旭南)
世話人	小熊正三(旭中央)	世話人	渋谷恒彦(秋田)
世話人	佐々木勝太郎(豊金)	世話人	工藤良二(宮下)
世話人	木幡和清(旭中央)	全(監査)	荒木正憲(旭一区)
世話人	吉村義正(北見市)	全(監査)	尾関昭夫(北見市)
世話人	井上勝昭(旭三区)		

# 大雄寺行事予定

8月16日	孟蘭盆施食会 新亡施食会 一般施食会	午前11時より 午前11時半より
9月23日	秋彼岸会	午後1時より
10月17日	成道会 ・11時頃より昼食が出ます。 ・御本山布教師様の御話しが御座います。	正午12時より
2月18日	御涅槃会 ・11時頃より昼食が出ます。 ・御本山布教師様の御話しが御座います。	正午12時より
3月21日 又は20日	春彼岸会	午後1時より

# 仏事

## Q & A

知ってるつもりでも、わからないことが多い仏教用語・作法もあるようです。そこで Q & A のコーナーを設けました。

**Q** お寺の境内に出来た永代供養塔の仏像はどなたでしょうか？

かんぜおんぼさつ

**A** 供養塔の仏さまは「観世音菩薩」と言います。「観音さま」との呼び名の方が皆様、馴染みがあるかもしれません。観音さまはこの世の中のたくさんの人の様々な苦しみを救うべく、姿・形を変え大いなる慈悲の心で私たちを包み込んでくれる存在であります。左手には慈悲の象徴である蓮華の華を持たれていて、供養塔の前に立って観音さまを見上げますと、穏やかなお顔で私達を見届けて頂いていると感じる事が出来ると思います。

**Q** 最近、自然葬という言葉が聞きますがどういう意味でしょうか？

**A** 自然葬とはお骨をお墓では無く、山や海などに散骨する（お骨を撒く）事を指します。多様な葬儀の形態と共に、従来のお墓以外の考え方も出てきました。それらが出てきた主な理由として都心部ではお墓の確保が難しい、将来的にお骨の守り手がいなくなるなど考えられます。故人の意志を尊重するのも大事ですが、散骨した後、家族が手を合わす抛り所が無くなって後悔しているという声も聞きます。どちらにしても家族・菩提寺と熟慮して決めることが大事でしょう。

# 心のたすき

## 「ありがとう」

上町 山田 万里

「ありがとう」



亡き主人、雅司さんが病床で私の手を握りながら、度々言っていた言葉です。でも本当に「ありがとう」の言葉は私から雅司さんに送る言葉です。雅司さんの死を通し、仏事はもちろん、人との繋がりが、全てのモノへの想いなど、沢山の事を学ばせて頂きました。四十代半ばで発病し五十三才で他界した雅司さんは、あらゆる治療法を試み最後まで生きる気力を失わず、笑顔絶やさない強い人でした。

両親より先に、また娘たちの成人する姿を見ずに逝ってしまう無念さは如何ばかりだったかと思いますが、残された私たち家族もやりきれない現実を受け入れ、悲しみを乗り越えるのは辛いものでした。

あれから四年が経ち五年目を迎え、やっと家族も雅司さんのいない寂しさを、悲しみに慣れ始めてきたところで「人生は修行の場」と言いますがこの数年はまさにそのもの。でもその中で雅司さんが教えてくれた、導いてくれた小さな喜び、幸せを感じる事もありました。

今頃は天国のお釈迦様の元で私達を微笑んで見守ってくれていると信じて、雅司さんに恥じない様に感謝の気持ちを持って「ありがとう」の言葉を胸に毎日を過ごしています。

この原稿を依頼された事によって、久しぶりにお線香の香りに包まれ、雅司さんの写真を前に思いを馳せる事が出来た気がします。忙しい日々を追われ、ゆっくりと手を合わす事の出来ない私にこのような時間を作ってくれた住職さんに感謝致します。

### 寄贈 袈裟法衣一式

施主 佐々木トシ子（栄町）

白雲堅堂居士  
菩提

霜月妙安大姉

### 寄贈 導師用曲録

施主 三宅 英文（元町）

恵美子

## 編集後記

▼ この会報も作るのもそうですが、皆様全員に御案内一つ送るのにも毎回、膨大な事務作業に追われてしまいます（苦笑）。自分のパソコン音痴を恨めしく思いながらも、昔のパソコンの無い時代を想像するとただただ頭が下がります。今は便利な時代になったと言えるのかもしれませんが、その分、失っていくモノにも目を向けられないけませんネ。（住職）

